

【事業の経緯】

別添資料1

道建-1 一般国道499号(竿浦拡幅)事業の経緯

審議経過	再評価 の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初	—	H3	H14	100.0	—	延長=2.5km 幅員=13(25)m
第1回審議 (H12)	事業採択後 10年経過	H3	H21	100.0	2.40	延長=2.5km 幅員=13(25)m
第2回審議 (H17)	再評価後 5年経過	H3	H20	120.0	2.10	延長=2.5km 幅員=13(25)m
第3回審議 (H27:今回)	事業完了後 5年経過	H3	H22	120.5	1.70	延長=2.5km 幅員=13(25)m

事後評価結果（平成 27 年度）

整理番号	道建-1
担当課	道路建設課
担当課長名	田添 智宏

事業名	一般国道499号 竿浦拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県長崎市江川町 至：長崎県長崎市平山町			延長	2.5km

事業概要

一般国道499号は長崎市と鹿児島県阿久根市を結び、広域交流の促進及び沿道地域の連携強化を図る幹線道路であり、また災害時の緊急輸送道路としても重要な路線である。竿浦拡幅は、長崎半島を縦断する道路の一部を構成する延長2.5kmの4車線の道路である。

事業の目的・必要性

当区間は、交差点の渋滞、交通混雑、歩道幅員の狭小等により、地域住民の生活ならびに社会・経済活動の発展に支障をきたしていた。このため、当区間を拡幅することにより、交通混雑の解消及び交通安全の確保を図り、広域的幹線道路の機能を確保する。

事業概要図



工期	着工	H 3 年度						
	完了	H 22 年度						
事業費	再評価時点(H17)	120.0 億円						
	最終	120.5 億円						
B/C	再評価時点(H17)	2.10	総便益(B) 264 億円	総費用(C) 128 億円	基準年度 H 17 年度			
	事後評価時点	1.70	総便益(B) 316 億円	総費用(C) 185 億円	基準年度 H 27 年度			
事業期間	事業化年度	H 3 年度	用地着手	H 3 年度	供用年 (再評価)	H 20		
	都市計画決定	H 2 年度	工事着手	H 4 年度	供用年 (実績)	H 22		
事業費	再評価時	(名目値)	120 億円	実績	(名目値)	121 億円	変動	1.1 倍
		(実質値)	126 億円		(実質値)	182 億円	変動	1.4 倍
交通量 (当該路線)	再評価時	25,393 台/日		実績	23,293 台/日		変動	0.9 倍
		(H42推計)			(H26)			
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)		19.2 → 30.0 km/h		交通事故減少 (供用前→供用後)		39 件 → 22 件		
費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	2.10	総費用	128 億円	総便益	264 億円	基準年	H 17 年
			(事業費)	126 億円	(走行時間短縮便益)	230 億円		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.70	総費用	185 億円	総便益	316 億円	基準年	H 27 年
			(事業費)	182 億円	(走行時間短縮便益)	298 億円		
事業遅延によるコスト増		費用増加額		便益減少額				
		57億円		-52億円				

	事業遅延の理由	<p>一部の用地買収区間で補償金不満や代替地要求等があり、時間を要し用地取得が遅れたため、事業の遅延が生じた。</p>
	客観的評価指標に対する事後評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行速度の向上 19.2Km/h(H17) ⇒ 30.0km/h(H23) ・混雑度の緩和 1.99(H17) ⇒ 0.81(H26)
	その他評価すべきと判断した項目	<p>特になし</p>
事業による環境変化	環境影響評価に対する項目	<p>環境影響評価については、対象外である。</p>
	その他評価すべきと判断した項目	<p>特になし</p>
	事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>平成17年1月4日に、長崎半島南部の三和町、野母崎町が編入合併された。</p>
	対応方針	
	当該事業に係わる対応方針 (今後事後評価の必要性及び改善措置の必要性)	<p>改良後に問題点等がないため、今後事後評価及び改善の必要はない。</p>
	同種事業に係わる対応方針 (同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性)	<p>人口減少や高齢化の進行などの社会情勢の変化により、交通量の変動等が考えられることから、未整備箇所の事業計画の逐次見直しを行うことが重要であるとする。</p>
	特記事項	<p>特になし</p>

平成27年度長崎県公共事業評価監視委員会

一般国道499号(竿浦拡幅)

一般国道499号道路改良工事（竿浦拡幅）



整備効果

- ①増加する交通需要に対応した交通容量の確保（混雑緩和）
混雑度 整備前（H17）1.99
⇒整備後（H26）0.81
- ②地域間交流の促進（旅行速度向上）
旅行速度（混雑時） 整備前（H17）19.2km/h
⇒整備後（H23）30.0km/h



一般国道499号道路改良工事（竿浦拡幅）



朝タピーク時
(7:00~10:00) (17:00~19:00)
断続的な渋滞が発生

起点（整備前）



朝の渋滞が無くなり、夕方においても
渋滞時間が減少(17:00~18:00)

起点（整備後）

一般国道499号道路改良工事（竿浦拡幅）



幅員が狭く
歩車道分離無し

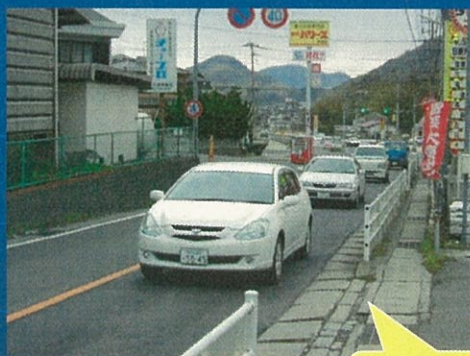
整備前（竿浦バス停付近）



歩道整備により
安全な通行が可能

整備後（竿浦バス停付近）

一般国道499号道路改良工事（竿浦拡幅）



幅員が狭く段差が
生じて危険な歩道

整備前（南竿浦バス停付近）



歩道整備により
安全な通行が可能

整備後（南竿浦バス停付近）

【参考資料】 B/C変化の要因(竿浦拡幅)

	再評価時		事後評価時																
事業期間	平成20年度	➡	平成22年度																
事業費	120.0億円	➡	120.5億円																
交通量	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>全車種</th></tr></thead><tbody><tr><td>交通量調査</td><td>22,087</td></tr><tr><td>H42伸び率</td><td>1.14</td></tr><tr><td>H42推計交通量</td><td>25,393</td></tr></tbody></table>		全車種	交通量調査	22,087	H42伸び率	1.14	H42推計交通量	25,393	➡	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>全車種</th></tr></thead><tbody><tr><td>交通量調査</td><td>23,293</td></tr><tr><td>H42伸び率</td><td>0.99</td></tr><tr><td>H42推計交通量</td><td>23,286</td></tr></tbody></table>		全車種	交通量調査	23,293	H42伸び率	0.99	H42推計交通量	23,286
	全車種																		
交通量調査	22,087																		
H42伸び率	1.14																		
H42推計交通量	25,393																		
	全車種																		
交通量調査	23,293																		
H42伸び率	0.99																		
H42推計交通量	23,286																		
費用便益比	2.10	➡	1.70																

【事業の経緯】

別添資料1

道建-2 一般県道伊王島香焼線(伊王島大橋)事業の経緯

審議経過	再評価 の理由	工 期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初	—	H9	H22	111.0	—	延長=2.7km 幅員=6.0(10.0)m
第1回審議 (H18)	事業採択後 10年経過	H9	H22	111.0	1.31	延長=2.7km 幅員=6.0(10.0)m
第2回審議 (H27:今回)	事業完了後 5年経過	H9	H22	121.9	2.71	延長=2.7km 幅員=6.0(10.0)m

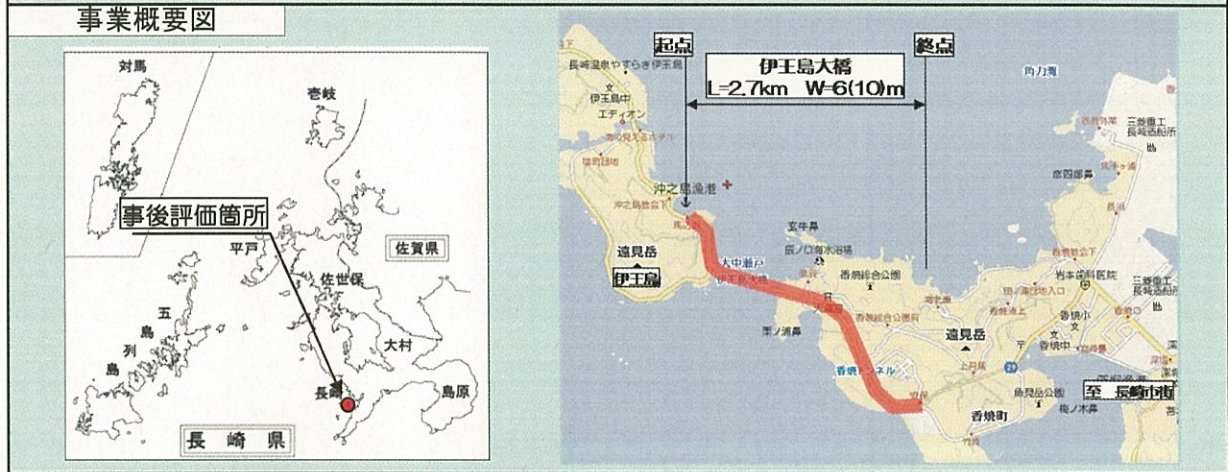
事後評価結果（平成 27 年度）

整理番号	道建-2
担当課	道路建設課
担当課長名	田添 智宏

事業名	一般県道伊王島香焼線 伊王島大橋	事業区分	一般県道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県長崎市伊王島町 至：長崎県長崎市香焼町	延長	2.7km		

事業概要
 一般県道伊王島香焼線は長崎市伊王島町と同市香焼町を結ぶ、広域交流の促進及び沿道地域の連携強化を図る補助幹線道路である。本工程は、路線全体の事業で、離島である伊王島町を伊王島大橋(L=876m)で本土化し、地域の生活環境改善及び活性化を図る重要な路線である。

事業の目的・必要性
 本工程の整備により、離島である長崎市伊王島町の生活の利便性向上が図られるとともに、国際観光都市長崎の観光ネットワークが形成され、地域の産業・経済活動の活性化に寄与するものである。



工期	着工	H 9 年度
	完了	H 22 年度
事業費	再評価時点(H18)	111.0 億円
	最終	121.9 億円
B/C	再評価時点(H18)	1.31 総便益(B) 149 億円 総費用(C) 114 億円 基準年度 H 18 年度
	事後評価時点	2.71 総便益(B) 474 億円 総費用(C) 175 億円 基準年度 H 27 年度

事業期間	事業化年度	H 9 年度 用地着手	H 11 年度 供用年	(再評価) H 22 変動 1.0 倍			
	都市計画決定	H - 年度 工事着手	H 12 年度 (実績) H 22				
事業費	再評価時	(名目値)	111 億円	実績	(名目値)	122 億円	変動 1.5 倍
		(実質値)	113 億円		(実質値)	171 億円	
交通量 (当該路線)	再評価時	625 台/日		実績	1,706 台/日 (H26)		変動 2.7 倍

旅行速度向上 (供用前現道→当該路線) (供用前年次) H - 年度 → 31.4 km/h (供用後年次) H 23 年度 交通事故減少 (供用前→供用後) - 件 → 1 件

費用対効果分析結果 (再評価)	B/C	1.31	総費用	114 億円	総便益	149 億円	基準年 H 18 年
			(事業費)	113 億円	(走行時間短縮便益)	63 億円	
			(維持管理費)	1 億円	(走行経費減少便益)	88 億円	
					(交通事故減少便益)	-2 億円	

費用対効果分析結果 (事後)	B/C	2.71	総費用	175 億円	総便益	474 億円	基準年 H 27 年
			(事業費)	171 億円	(走行時間短縮便益)	171 億円	
			(維持管理費)	4 億円	(走行経費減少便益)	315 億円	
					(交通事故減少便益)	-12 億円	

事業遅延によるコスト増	費用増加額	-	便益減少額	-
-------------	-------	---	-------	---

事業の効

果等	事業遅延の理由	
	遅延なし	
	客観的評価指標に対する事後評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・島内最大のリゾート施設である「やすらぎ伊王島」の利用者増(H22)127,873人⇒(H23)160,210人 ・島内の観光施設である「伊王島灯台記念館」の利用者増(H22)1,516人⇒(H23)6,831人 ・救急搬送体制や、防災・防犯体制が高度化し、地域の安全性が大きく向上 2次医療搬送 68分(救急船利用)⇒ 15分(伊王島大橋利用) ・研修施設「セントロ・クートラル」の利用者増による地域間交流の活発化(H22)590人⇒(H23)1,155人
	その他評価すべきと判断した項目	
	特になし	
事業による環境変化	環境影響評価に対する項目	
	環境影響評価については、対象外である。	
	その他評価すべきと判断した項目	
	特になし	
	事業を巡る社会経済情勢等の変化	
	平成17年1月4日に、長崎半島西南部や有人島の離島である伊王島・高島・池島が編入合併された。	
	対応方針	
	当該事業に係わる対応方針 (今後事後評価の必要性及び改善措置の必要性)	
	利便性の向上、医療福祉及び観光、地元産業への支援が図られるなど効果が現れており、今後事後評価及び改善の必要はない。	
	同種事業に係わる対応方針 (同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性)	
	島内交通量が増加したことにより、今回違法駐車が増加や歩行者、自転車、車両の輻輳等の課題も出てきたことから、今後同種事業においては、その対応策も含めて事業計画を行っていくことが重要であると考えている。	
	特記事項	
	特になし	

平成27年度長崎県公共事業評価監視委員会

一般県道伊王島香焼線(伊王島大橋)



伊王島大橋の概要

全体計画延長 : L=2,700m
 幅員 : W=6.0(10.0)m
 道路区分 : 第3種第3級
 設計速度 : 50km/h
 事業区間 : 長崎市伊王島町～長崎市香焼町



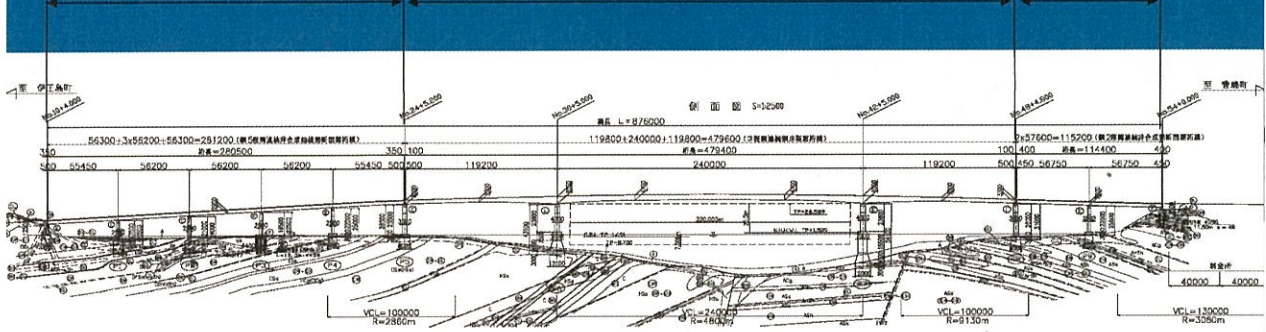
伊王島大橋の概要

橋長 L=876m

伊王島側取付高架橋
 鋼5径間連続非合成
 曲線開断面箱桁橋
 桁長 L=280.5m

主橋梁
 3径間連続鋼床版箱桁橋
 桁長 L=479.4m

香焼側取付高架橋
 鋼2径間連続非合成
 開断面箱桁橋
 桁長 L=114.4m



伊王島大橋の概要



完成写真
平成23年3月供用



橋桁（はしげた）架設状況写真
（伊王島側ブロック）

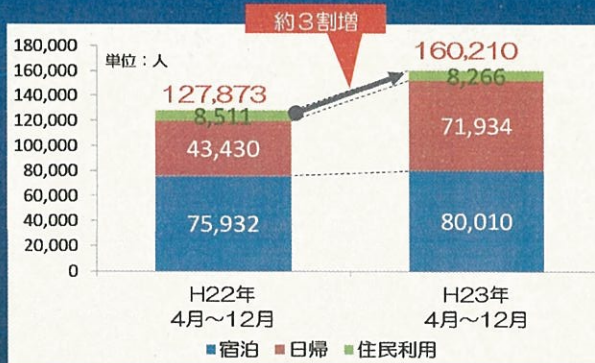


橋桁（はしげた）架設状況写真
（中央ブロック）

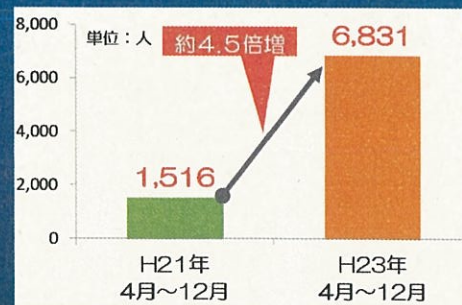
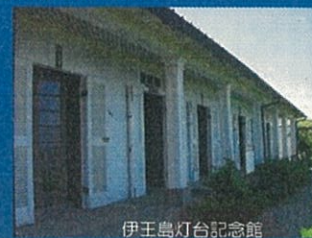
伊王島大橋の整備効果

観光

①温泉宿泊施設「やすらぎ伊王島」の利用客数が、日帰り客を中心に前年比で約3割増加



②「伊王島灯台記念館」の利用者が開通前と比較して約4.5倍の大幅増



伊王島大橋の整備効果

生活

①救急搬送体制や、防災・防犯体制が高度化し、地域の安全性が大きく向上

②研修施設「セントロ・クートラル」の利用者が、約2倍に増加するなど、本土部との地域間交流が活発化

2次救急医療施設への搬送時間の短縮

救急艇による搬送

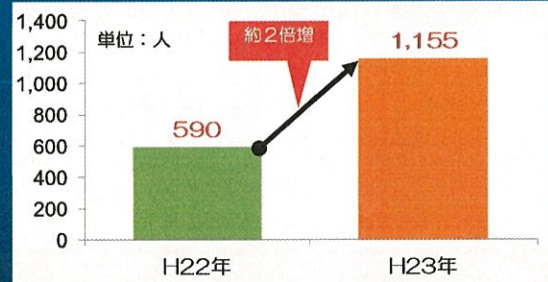
整備前：68分

整備後

救急車による搬送

整備後：15分

H23搬送件数：100件



【参考資料】 B/C変化の要因(伊王島大橋)

	再評価時	事後評価時
事業期間	平成22年度	平成22年度
事業費	111.0億円	121.9億円
交通量	625台/日	1,706台/日
費用便益比	1.31	2.71

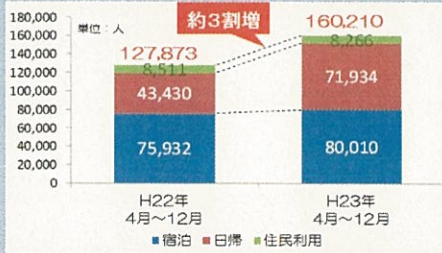
道路と観光客が“しま”へやってきた！

● before

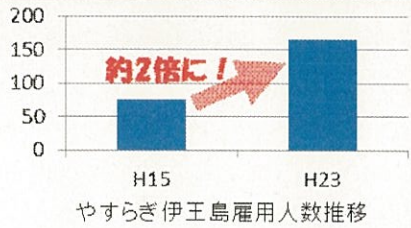
● after

伊王島大橋の架橋により、伊王島へのアクセス強化が図られ、観光客数が約3割増加。
観光客の増加に伴い、観光施設を始めとした雇用の拡大が図られている。
今後、バスによる大量輸送が可能となることで、修学旅行の誘致など新たな客層の拡大が図れる。

日帰り観光客数の増加！



観光客の遺塊により、雇用の拡大！



利用客数が3割増加



長崎市街から最も近い海水浴場として人気に



【地元商工会の声】

- 開通後に飲食店等4店が新規に開業しています。
- 夏期に地元と協働で物産販売（デント）を開設し、地元特産品等を販売するとともに、地元で穫れる「ふなわり貝」を利用した地元特産品を開発し、販売されています。



【深堀地区の商業施設の声】

- 真夏に観光・余暇客の来店が大幅に増加し、レジャー関連用品や飲料品の売り上げが大幅に増加しました。

【やすらぎ伊王島関係者の声】

- 大量輸送が可能なバスで来訪できるようになった為、修学旅行の誘致を進めています。